



# 勝林寺報

## 出会える世界



それでも自分ながら、そんな世界が現実にあるのかどうか、やはり漠然とした夢のような思いであったのかしれません。

丁度そんなおり、三回忌かなにかのとき、お説教で「お淨土」のお話を聞き、お淨土のことが説いてある『仏説阿弥陀経』のあげ方よくありません。まだ門松のある間に、私の周囲で悲しいことが折り重なって起こってまいりました。

明けて今年こそはと、立ち上がったこの新しい春でありましたが、正月草々から幸先よくありません。まだ門松のある間に、私の周囲で悲しいことが折り重なって起こってまいりました。

七十歳前後のお方が、男・女あわせて、ここの小さな町から亡くなつていかれました。

思えば、私が主人を失つた二十年前も同じであります。あの年はこの四十戸程の町内したが、今現在の七十歳なんてまだまだ働き盛りです。

しかしあの頃の七十歳は随分のお年寄りでした。しかし連れ合いと別れたという辛さ悲しさは、それはそれはいいようもありませんでした。長い看病のつかれもありました。虚脱状態と云うのでしょうか、何をしても何を云つても、そこに自分はないのでした。もぬけの

からで、生きている実感なんか全くありません。そんな日が約一年は続いたと思います。

一年過ぎたころから、これではダメと、自分に鞭打ちがんばらなくっちゃーとしましたが、そのとき今はもういない主人が、不思議と一番の相談相手になりました。一人で毎晩、死んだ主人とはなしあいました。

そんなときには、主人は決して死んだ向こうの人ではありませんでした。死んだものと生きている者とが、話合え死んだ主人とはなしあいました。

京都に嫁いだ一番末の妹。「学校から帰ってきたら、おばあちゃんが言つてくれた。(マンマンちゃんとおやつもらつてきな)」。わたしらんでもほとけさんからいただいたい

ました。そんな世界があるので云うことを知りま

尼崎で今も公務員している弟が言いました。  
「うちではなんでも大事な物は、みんなお仏壇に仕舞つてあったわ。預金通帳・褒賞状。だいいちにぼくが学校から成績や通知簿もらつてたら、それみんなお仏壇に供えるんや。親が見る前に仏さんに見せるんや。ええ成績のときはよかつたけど、悪いときはあれ辛かったわ。それから今まで言うけど、お仏壇に仕舞つてあるお金、何度も言つてほとけさんからお借りした事もあった。あれ中学校になつてからやつたけど。」

あれから20年もたつた今、私は今でも、というよりも時が経てばたつほど、ありありと夫とあつてお話しすることが出来るのです。

南無阿弥陀仏といふお念仏をとなえたら、いつでもどこでも一つ所で出会えるこの幸せを、日々慶ばせていただいているのです。



## お仏壇の入仏式

ほんとうはきょうだい四人が里帰りして集まるお正月に間に合わしてほしかったのですが、お店(仏壇店)の都合で新しいお仏壇が入ったのは一月七日の朝になりました。ですからきょうだいみんなその日まで向こうに帰るのをのばしたのです。

「高かつたけれど思ひきつたんや」と跡取りの長兄が言つたほどあって、なかなか大したお仏壇であります。みんな仏壇の前に集まって「ホー」と感嘆の声を挙げながら、こもごもお仏壇にまつわる思い出を話しあいました。

もちろんお寺から来ていただきて、このあと入仏式をしていただきましたが、それはともかくわたしは、兄貴の言つた「お仏壇の前には、親子の眞実、家の眞実、人間の眞実がある」ということばが、一番印象に残るよう

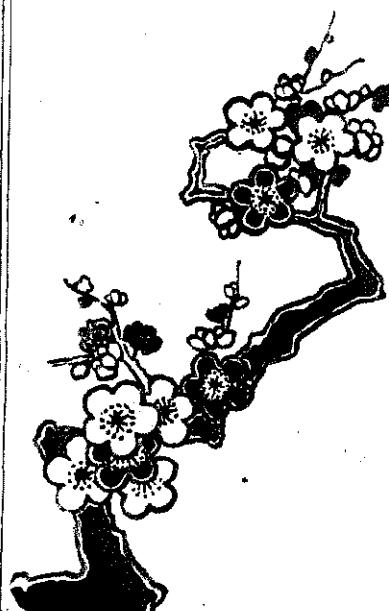
に思いました。

同時に、いまどこの家にも、このお仏壇がおろそかにされていることに、今度初めて気が付きました。あらためて仏壇とは何と考えるまえに、わたしの家にも小さくても早くお仏壇をお迎えしなければと考えたことで



## 二月のこよみ

一日	D S	神戸布教大会
二日	D S	兵庫教区参与会発会式
三日	D S	仏事会(午後1時)
四日	D S	友遊クラブボランティア
五日	D S	本山
六日	D S	仏婦評議員会
七日	D S	兵庫教区基幹運動僧侶研修会
八日	D S	二十六夜会定例法座
九日	D S	朗読ボランティアあすなろ編集
十日	D S	二十二日 D S
十一日	D S	二十一日 友遊クラブボランティア
十二日	D S	二十四日 宮嶋 一男氏宅法事
十三日	D S	二十五日 あすなろ録音
十四日	D S	二十六日 みのりを聞く会定例法座
十五日	D S	
十六日	D S	
十七日	D S	
十八日	D S	
十九日	D S	
二十日	D S	
二十一日	D S	
二十二日	D S	
二十三日	D S	
二十四日	D S	
二十五日	D S	
二十六日	D S	
二十七日	D S	
二十八日	D S	
二十九日	D S	
三十日	D S	
三十一日	D S	



敬宮・愛子さま  
誕生

おめでとうございます。

この一年、テロだ、倒産だ、失業だ、戦争だと。その長い暗いトンネルからパッと出たよう感じです。

ほんとうにこころから、「おめでとう」と叫んでしまいました。

そして昨日、敬宮(としのみや)愛子さまのお名前が付いたことで、わたしは飛び上がるほど感動しました。

というはこのお名前のどこ『孟子』の一文のいわれを、わたし知っていたからです。

今から十五年前、老人会の研修で、今は亡きある老先生から聞いたこの話を今でも鮮明に覚えていたからです。

念のため古いノートで確かめてみました。

先ず「君子」(偉いお方)というのは、どんな時にも自分のこころをキチンともつてゐる人だ。「小人」(つまらん人間)は、人のことばやうわざばかりに気を取られて、それに振り回されて生きている人。

「耳が聞こえんようになればなるほど人の云つてゐる事が気になつて、イライラ腹が立つて自分が失っている年寄りはだれでしょうか」「どんなに年寄つても、仁(人とのあつきあい)のうえでは礼(礼儀作法)がだいじだよ」その「人との円満なつきあいをするためにいちばん大事なことが、『愛と敬』」

そこからがその老先生の一番力のこもつたお話でありました。

「愛する人は人から愛されます」「敬う人は人からも敬われます」

先生はそここのところを漫画のような絵文字を書いて説明してくださいました。

「敬うと云う字。腰曲げて大きな刈草を背負つて働いているお年寄り。そのお年寄りの後ろに手を差し伸べている、その姿を文字化

おめでとうございます。

この一年、テロだ、倒産だ、失業だ、戦争だと。その長い暗いトンネルからパッと出たよう感じです。

ほんとうにこころから、「おめでとう」と叫んでしまいました。

そして昨日、敬宮(としのみや)愛子さまのお名前が付いたことで、わたしは飛び上がるほど感動しました。

というはこのお名前のどこ『孟子』の一文のいわれを、わたし知っていたからです。

敬宮・愛子さま  
誕生

したのがこの敬うという文字です。

お年寄りの荷物を取つて上げて仕事しないでジットしてなさいと云つてはいる手でしようか。

それともお年寄りに気づかれないようになつてお年寄りに気づかれないようになつてお年寄りにまでして私のために働いてくださるお年寄りのそのおこころを勿体ないと受け取らせていただく手だとわたしは思ひます。

「愛するにしても敬うにしても、愛してやつてるんだ敬って上げるのだというこころは所詮憎しみや恨みに変わってしまいます。おおきな愛に育まれてゐる満たされたこころのなかで、おかげさまでありがとうと生きたいものですね」というのが、あの老先生の結論であつたとおもいます。

その時その先生に書いていた「心を存す」という色紙と、「愛」・「敬」二つの額が実は私の部屋に今もかかっているのです。

その額の文字が、今度のお姫さまのお名前になつたとは、老いたわたしに有り難い感動がありました。

勝林寺でも御同朋の結集を



「御同朋の結集」とは

お念佛のみ教えのなかの兄弟姉妹、あらためてあたたかな出会いをもちましょう

ということです。

村は分解し、家庭もバラバラ。年寄りと若い者とも通じ合えなくなつてしましました。と同じように、同じお念佛をいただいていながら(同じ寺の門信徒でありながら)疎遠になつたり通じ合えなかつたり、時には対立差別おこることもあるかも知れません。

そのような淋しい人間関係が実際にあるのかどうか。もしもあるならば今一度、だれも来い、共に来いとお呼びくださるお念佛を聞くなかで

これ乗り越えて、御同朋みんながいつもつに出会える「てら」勝林寺にするにはまず、皆が寄り合つて考え合い話し合う事からはじめなければなりません。

ご案内の仏事総会・仏婦評議員会はそのための大切な機会です。浮ついた単なるイベントにならないようそれ皆様のご協力をお願ひ致します。

勝林寺仏教青年会総会

一月十一日(日)午後二時

午前九時半より

勝林寺仏教婦人会評議員会

一月二一日(日)午後二時

午前九時半より

☆詳細案内はそれぞれの組織を通して



代議員会報出

一月二十六日午後3時からひらかれた代議員会には、門徒総代、仏事仏婦会長と左記今年度の地区代議員はどんと全員参加のもと、提出議案を熱心に協議いたしました。十三年度の経過報告並びに決算報告は報告通り承認、十四年度の行事並びに予算案についても提案どおり可決しました。

お、山門鐘樓建築特別会計に関しては今年度秋の寄付分担金納入をもつて完結すること。その時点でお組御同朋結集大会について永井仏社会長より説明と依頼がありました。くわしくは地区評議員を通じてご理解ください。

平成14年度 勝林寺役員名簿

地区名	代議委員	仏事	仏婦
寺坂	山田博文	山田博文	山田洋子
日野辺	坂本剛志	坂本剛志	坂本道江
桐野	奥地条男	奥地条男	奥地和子
百合	谷原富雄	谷原富雄	谷原富佐江
坪口	中島武志	坂本貢	坂本幾美
坪口	横山洋海		
榎見	中山重雄	中山重雄	横山みゆき
榎見	湯口孝春		
和屋	成田馨	成田馨	成田りく代
鉢山	足立幸夫	足立幸夫	足立ふみ子
暮坂	平野稔	平野稔	平野あい子
片間	南敬貴	南敬貴	南加寿子
丸中	立脇晃	立脇晃	立脇みさゑ
出石	亀井孝	亀井孝	亀井元子
出石	坪木勉	坪木勉	坪木公子
出石	山田正直	山田正直	山田妙子
佐田	石田隆雄	石田隆雄	石田文子
奥栗尾	大月忠男	大月忠男	大月千鶴子
口栗尾	兼井通夫	兼井通夫	兼井由恵
正法寺	数森昭	山田芳美	
正法寺	山田弘之		山田みゆき
口小谷	宮嶽盛義	宮嶽達也	沢田奈保美
口小谷	山田富雄		
奥小谷	沢田照夫	沢田照夫	澤田より子
保谷	岸下正美	岸下正美	岸下菊美
東里	長谷川進	森戸義則	森戸治子
太田	坪木隆晴	坪木隆晴	坪木文子
唐川	渋谷厚志	渋谷厚志	渋谷千津子
出合	関川一男	清水正和	関川鈴子
市場	横山一夫	大石正和	横山恵子
日殿	森井勉	森井勉	森井成子
矢根	永井孝一郎	永井孝一郎	永井光子
矢根	永井淳	永井淳	永井弘子
野尻	衣川正之	衣川忠良	衣川はるの
小田	岩上三喜夫	岩上三喜夫	岩上加代子
小田	田中歳康	田中歳康	田中久子